



目次

- (1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ
交通バリアフリー推進の集いのお知らせ
活動概要と優秀事例の公募のお知らせ
交通バリアフリー推進セミナー報告書配布について
- (2) ネットワーク参加団体からのお知らせ
2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について（東京ハンディキャブ連絡会）
- (3) エコモからのお知らせ
平成14年度交通バリアフリー活動に対する助成について
交通機関の情報提供についてご意見をお寄せください
らくらくおでかけネットについて
公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について
交通バリアフリー法に基づく基本構想策定に関するパンフレットについて
「交通バリアフリー法に基づく基本構想策定に関するポイント」
- (4) 行政からのお知らせ
交通バリアフリー法基本構想策定状況
地方運輸局において交通バリアフリー教室を開催
- (5) 各種催し物のお知らせ
勉強会「火災などから聴覚障害者を守るために」-火災警報伝達方法のあり方について-
勉強会「聴覚障害者にも優しい宿泊施設をめざして」-聴覚障害者が必要としている配慮とは(草案)-
第10回 福祉のまちづくりセミナー
土木学会全国大会第57回年次学術講演会
第6回 DPI 世界会議
第26回土木計画学研究発表会（秋）大会
第37回日本都市計画学会 学術研究論文発表会
国際ユニバーサルデザイン会議2002
- (6) その他
21世紀高齢社会の都市バリアフリー化の課題の配布について（日本政策投資銀行）
バリアフリーマガジン「WE`LL（ウィル）」が月刊誌として新創刊（アテックインターナショナル）
書籍に関して
記事募集中
お願い（必ずお読みください。）
・転送先について
・送付先について

コラム

(1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ

交通バリアフリー推進の集いのお知らせ

交通バリアフリー法が施行されてから、まもなく2年が経過しようとしています。施行後5年の見直しも視野に、交通バリアフリーの推進のために現在何が問題になっているのか、今後取り組むべき重点課題は何かについて考えてみたいと思います。

また、交通バリアフリーの一層の推進を図るために今後の範となる優秀事例発表や、ネットワーク参加団体の情報交換と相互交流のための活動事例発表等も合わせて行いたいと考えております。

どなたでもご参加頂けますので、奮ってご参加下さい。

日時：11月15日(水) 13:00~16:45

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター 渋谷区代々木神園町3-1

参加費：無料

後援：国土交通省

内容：

13:00 開会挨拶 交通エコロジー・モビリティ財団会長 大庭 浩

13:05 来賓挨拶 国土交通省総合政策局長 三沢 真

13:10 ネットワーク活動経過報告 交通エコロジー・モビリティ財団

13:15 バリアフリー優秀事例表彰・優秀事例報告

14:00 ネットワーク参加団体活動事例報告(2-3団体 各15分程度)

14:40 途中休憩

15:00 パネルディスカッション

「交通バリアフリーの今後の課題(交通バリアフリー法施行後2年を経過して)」

東京都立大学大学院都市科学研究科教授 秋山 哲男

国土交通省総合政策局交通消費者行政課長 室谷 正裕

交通事業者、地方自治体、市民団体、身体障害者団体等

16:45 閉会挨拶

17:00 交流会(ティパーティ)

活動概要と優秀事例の公募のお知らせ

11月15日(金)に開催いたします「交通バリアフリー推進の集い」の当日に、ネットワークに加盟して頂いております皆様の情報交換と相互交流を図るために、活動概要を配布させて頂こうと考えております。また、交通バリアフリーの優秀事例を皆様よりご推薦頂き、ささやかではございますが感謝状をお渡しさせて頂きたいと考えております。

メールマガジンをご購読の方からも募集を行い、ご協力を頂ければと思います。活動概要や優秀事例募集に関しては、当財団のホームページをご参照ください。沢山の活動概要のご提出と優秀事例の応募をお待ちしております。

http://www.ecomo.or.jp/itami_sengen/itami_1_yobikake.html

交通バリアフリー推進セミナー報告書配布について

先月号でもお知らせしましたが、昨年1年間で、全国10カ所で開催しました交通バリアフリー推進セミナーの報告書を作成しました。ご希望の方は、ご連絡ください。

(2) ネットワーク参加団体からのお知らせ

2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について(東京ハンディキャブ連絡会)

2002年10月15~18日に北海道札幌市において、世界各国から約2000名の障害のある方々等が集まりDPI札幌大会が開かれます。この大会への海外からの参加者が経由する成田空港~羽田空港間を中心と

する送迎について、東京ハンディキャブ連絡会では、埼玉県移送サービスネットワークと横浜移動サービス協議会の3団体で共同してあたります。

現時点で、海外からの参加申し込みの内、1/3程度が成田～羽田間の送迎を希望しており、約100組程度になっています。

参加者の来日は、送迎を実施する10月12～14日に平均するとは限らず、特に大会直前の13、14日は多くの送迎が必要になると考えられます。また大会終了後の19～20日も、集中して離日することになりますので、こちらも多く送迎が必要です。運行団体によっては、そろそろ10月の運行スケジュールを立て始めることと思いますが、1往復でも半日でも結構ですので、是非送迎にご協力をお願いいたします。

なお、今回の運行経費については、成田空港～羽田空港間の運行経費（利用料）は協力運行団体共通とし、各空港までの回送料を設定して、団体毎の走行距離の違いに対処することになります。

また、各空港での誘導・介助ボランティアも募集していますので、車両運行だけでなく、人的ご協力もあわせてお願い申し上げます。

送迎協力についてのお問合せ・お申し出は、東京ハンディキャブ連絡会または、埼玉県移送サービスネットワーク、横浜移動サービス協議会までお願いいたします。

(3) エコモからのお知らせ

平成14年度交通バリアフリー活動に対する助成について

当財団は、これからの高齢社会の到来に備え、また障害者の社会参加を促進するため、高齢者や障害のある方々の移動円滑化を促進するボランティア団体等の行う交通バリアフリー活動に対して、その活動資金の一部について助成していくことにいたしました。詳細や応募方法については、当財団のホームページ (<http://www.ecomo.or.jp/>) をご覧ください。

交通機関の情報提供についてご意見をお寄せください

視覚障害者や聴覚障害者等の情報制約者に対する鉄道利用に関わる交通情報の提供についての調査を進めております。現在の情報提供の実態把握、及びその課題を明らかにし、円滑に交通機関を利用できることを目標とする情報提供に関する各交通事業者共通のマニュアルの作成を目指しております。

今まで駅をご利用になった際に、お困りになったこと、お気づきになったこと、よかったこと等がございましたら、ご意見や路線名や駅名等をお寄せください。ご意見を頂く際は、ご所属、お名前、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mail等)をお書きの上、郵送、メール: ecomomail@ecomomail.com、FAX: 03-3221-6674までお送りください。

らくらくおでかけネット

ご存じですか。らくらくおでかけネット(交通バリアフリー情報提供システム)を本年1月から開始しております。これは、インターネットや携帯端末を使って、エレベーターの設置状況、身体障害者対応型トイレの設置状況などをバリアフリーの最適なルートが探索できます。1月の運用開始からこれまで(8月31日) 432,642件(1,894件/1日)のアクセスがありました。皆様のご意見をお待ちしております。

アドレス:(パソコン版) <http://ecomomail.com/rakuraku/index/>

(携帯版=i-mode,j-sky) <http://ecomomail.com/rakuraku/mobile/>

(携帯版=EZ-web) http://ecomomail.com/rakuraku/mobile_ez/

公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について

前回のメールマガジンにて「公共交通ターミナルのバリアフリー度評価に関する簡易評価マニュアル」を公開した旨のお知らせを致しました。

本評価マニュアルは、あくまでも地域のボランティア、市民グループ、学生の皆様などが自主的に評価に取り組みまれる時(地域の基本構想作成時などが考えられます)にお役立ていただく方法として、提供させていただいておりますので、是非ともご自由にお使いいただければと思います。なお、弊財

団より、評価を行う旨の依頼を皆様に行っているものではありませんので、誤解のないよう、よろしく
お願いいたします。

交通バリアフリー法に基づく基本構想策定に関するパンフレットについて

「交通バリアフリー法に基づく基本構想策定に関するポイント」

平成12年11月「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律（交通バリアフリー法）」が施行されました。この法律により、市町村は、一定規模の駅などの旅客施設を中心とした地区（「重点整備地区」）について、駅などの旅客施設、周辺の道路、駅前広場、信号機等のバリアフリー化を重点的かつ一体的に推進するため、バリアフリー化のための方針や実施する事業等を内容とする「基本構想」を策定できることとなりました。

法が想定する1日の利用者5,000人以上の旅客施設が所在する市区町村は全国に573ありますが、基本構想の策定計画がある自治体が6割強の368、基本構想が受理されているものは30にとどまっています（平成14年8月13日現在）。また、受理された基本構想にも、住民参加や連携といった基本的な点で質のばらつきが見られます。高齢社会を迎えてバリアフリーに対する期待が日増しに大きくなっていくにもかかわらず、基本構想策定への取り組みが遅れていたり、質的なばらつきが見られたりする背景には、基本構想策定の方法が十分に分からなかったり、まだ参考となる事例が少ないことなどが考えられます。

そこで今般、基本構想策定に取り組む自治体等関係者のため、これまでの経験の中で参考になると思われる点を「基本構想策定のポイント」としてまとめました。なお、本パンフレットは、9月中旬に大成出版社より発刊予定の「交通バリアフリー法に基づく基本構想策定の手引き～先進事例に学ぶ～」（本体価格3,000円 B5 190頁）の要約版となっております。1部150円です。お問い合わせ、お申し込みは、当財団まで（TEL03-3221-6673、FAX03-3221-6674）。

（4）行政からのお知らせ

交通バリアフリー法基本構想策定状況

基本構想を作成済みの市区町村 30 市区町村

福岡県福岡市、北海道室蘭市、広島県呉市、千葉県千葉市、山梨県石和町、大阪府守口市、鳥取県鳥取市、新潟県亀田町、大阪府交野市、大阪府八尾市、千葉県船橋市、北海道千歳市、大阪府堺市、福岡県大牟田市、東京都荒川区、富山県小杉町、福岡県福岡市、兵庫県明石市、香川県丸亀市、石川県金沢市、北海道恵庭市、埼玉県熊谷市、神奈川県相模原市、滋賀県守山市、大阪府河内長野市、広島県広島市、神奈川県秦野市、福岡県北九州市、大阪府豊中市、長崎県佐世保市

詳細に関しては、国土交通省のホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010813_.html

地方運輸局において交通バリアフリー教室を開催

急速な高齢化や身体障害者の自立と社会参加の要請に適切に対応し、高齢者、身体障害者等が公共交通機関を円滑に利用できるようにするため、施設整備（ハード面）だけでなく、手助けがしやすい環境づくり（ソフト面）を行うことが求められています。そこで、国土交通省では、地方運輸局において、「交通バリアフリー教室」を開催し、高齢者、身体障害者等に対する介助等の体験等を行うことを通じて、交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者、身体障害者等に対し、自然に快くサポートできる「心のバリアフリー」社会の実現を目指しております。

詳細に関しては、国土交通省のホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha01/01/010824_.html

（5）各種催し物のお知らせ

勉強会「火災などから聴覚障害者を守るために」-火災警報伝達方法のあり方について-

共催者：社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会、ベター・コミュニケーション研究会

日 時：9月20日(金曜日)、13時から16時半まで

会 場：東京都中野区・東京都生協連会館・C会議室 (JR・地下鉄東西線中野駅下車7分)

会場の地図は<http://www.bcs33.com>に掲載しています。またはベター・コミュニケーション研究会へご請求下さい。

演 題など：(敬称略)

ご 挨拶：国会議員、厚生労働省、経済産業省他

体 験 談：「聴覚障害者の被災体験から」 人選中

問題提起：「聴覚障害者と消防法施行令などの問題点とこれまでの取り組み」

バリアフリー・アドバイザー 岩淵紀雄

報 告：「米国のADA法・消防法と聴覚障害者関連条項について」

独立行政法人建築研究所首席研究員 古瀬 敏

参考発表：「聴覚障害者、ホテル用火災警報機のデモンストレーション」

東京医科歯科大学助手 宮崎信次

株式会社国際企画 小野 功

「高齢社会に対応した火災警報設備について」(社)日本火災報知機工業会 人選中

全体討論会

参加費：お一人5000円(当日払いは余席のある場合のみ6000円)、資料代込み

申し込み・問い合わせ先：ベター・コミュニケーション研究会(『いくお～』編集部)

〒164-0001 中野区中野3-33-3-5F

E-mail: equal@bcs.33.com FAX: 03-3382-6565 TEL: 03-3380-3324

勉強会「聴覚障害者にも優しい宿泊施設をめざして」-聴覚障害者が必要としている配慮とは(草案)-

主催者 ベター・コミュニケーション研究会

時 期 10月18日(金曜日)、13時から16時半まで

会 場 東京都中野区・東京都生協連会館・C会議室(JR・地下鉄東西線中野駅下車7分)

演題など(敬称略)

ご 挨拶：国土交通省他(予定)。

研究発表：「聴覚障害者宿泊者などの体験から-日米を比較して」相良啓子(聴覚障害者・予定)

問題提起：「国土交通省におけるバリアフリー施策について」国土交通省(交渉中)

事例紹介：「聴覚障害者宿泊に関する旅行各社の取り組み」 ・JTBの取り組み(交渉中)

・日本旅行の取り組み(交渉中)

事例紹介：「ホテルにおける聴覚障害者の配慮について」

・京成ホテル・営業企画部長・秋元昭臣

参考発表：「聴覚障害者、ホテル用機器のデモンストレーション」

・株式会社国際企画・小野 功他

全体討論会

参加費：お一人5000円(当日払いは余席のある場合のみ6000円)、資料代込み

申し込み・問い合わせ先：ベター・コミュニケーション研究会(『いくお～』編集部)

〒164-0001 中野区中野3-33-3-5F

E-mail: equal@bcs.33.com FAX: 03-3382-6565 TEL: 03-3380-3324

第10回 福祉のまちづくりセミナー

開催日時 10月8日(火) 13:30~17:00

実施会場 兵庫県民会館9階大ホール(神戸市中央区下山手通4丁目16番3号)

主 催 兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所

後援(予定) 日本福祉のまちづくり学会、日本リハビリテーション工学協会、日本機械学会関西支部福祉介護機器懇話会、ひょうごアシステック研究会、社団法人兵庫県建築士会、社団法人兵庫県建築士事務所協会、社会福祉法人兵庫県社会福祉協議会、兵庫県リハビリテーション協議会、社団法人兵庫県看護協会、兵庫県理学療法士会、兵庫県作業療法士会

- テーマ 『参画と協働による福祉のまちづくりー福祉のまちづくり条例制定10周年を記念してー』
参加 300名(県民、福祉団体・大学研究機関・企業・行政等関係者) 参加費無料
- 次第 13:30 開会
13:35 あいさつ
13:45 基調講演「参画と協働のまちづくり(仮称)」
まちづくり会社コー・プラン 代表 小林 郁雄
- 14:45 休憩
15:00 パネルディスカッション
テーマ「参画と協働による福祉のまちづくりの新たな展開」
コーディネーター：小林 郁雄
パネリスト：三戸呂 克美(県在住頸髄損傷者)、
三星 昭宏(近畿大学理工学部教授)、兵庫県関係者、
多淵 敏樹(福祉のまちづくり工学研究所長)
- 17:00 閉会
- お問合せは、兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所企画情報課 電話 078-925-9282
- 土木学会全国大会第57回年次学術講演会
9月25日(水)、26日(木)、27日(金)の3日間
北海道大学(北海道札幌市北区北13条西8丁目)
- 第6回DPI世界会議 http://homepage2.nifty.com/dpi-japan/6_wa/waj/waj_top.htm
世界の障害当事者が、4年に1回各国に集い開催する会議です。2002年は、ポスト十年に向けて障害者の権利条約制定などをテーマに開催します。
- 10月15日(火)~18日(金)の4日間
道立体育総合センターきたえーる(北海道札幌市豊平区豊平5条11丁目)にて開催。
- 第12回RIアジア太平洋地域会議
同時開催 国際職業リハビリテーション研究大会、総合リハビリテーション研究大会
リハビリテーション分野の専門家を中心に参加者が集い、アジア太平洋地域各国で4年に1回開催されます。2002年は、DPI世界会議に引き続いて開催し、広く障害当事者の参加を得て、共同宣言の採択を行います。
- 10月21日(月)~23日(水)の3日間
国際障害者交流センター(大阪府堺市茶山台1-8-1) <http://www.big-i.jp/>
「アジア太平洋障害者の十年」推進キャンペーン2002
アジア太平洋地域各国の障害者関係NGOを中心に参加者が集い、1993年以来、毎年各国にて開催。NGOの立場から障害者の運動や施策を推進します。
- 10月21日(月)~23日(水) RI会議と同時開催
国際障害者交流センター(大阪府堺市茶山台1-8-1) <http://www.big-i.jp/>
- 第26回土木計画学研究発表会(秋)大会
11月2日(土)~4日(月)
岩手大学(盛岡市上田三丁目18-8)
- 第37回日本都市計画学会 学術研究論文発表会
11月16日(土)~17日(日)
大阪市立大学 杉本キャンパス(大阪市住吉区杉本3-3-138)
- 国際ユニバーサルデザイン会議2002 <http://www.ud2002.org/index-j.html>
11月30日~12月4日の5日間。パシフィック横浜にて開催。
連絡先：相鉄エージェンシー/パシフィック・コンベンション・サービス
TEL：045-450-7003 E-mail：info@ud2002.org

(6) その他

21世紀高齢社会の都市バリアフリー化の課題の配布について(日本政策投資銀行)

日本政策投資銀行では、「21世紀高齢社会の都市バリアフリー化の課題 シームレスなバリアフリー都市実現の方策」に関する報告書を平成14年3月に作成いたしました。内容としては、都市バリアフリー化に対する現状と課題に関してまとめています。詳細に関するお問い合わせと、報告書をご希望の方は、日本政策投資銀行都市開発部都市バリアフリー化研究チーム TEL03-3244-1710もしくは、FAX03-3271-8464まで、ご連絡ください。

バリアフリーマガジン「WE`LL(ウィル)」が月刊誌として新創刊(アテックインターナショナル)

バリアフリーマガジン「WE`LL」(創刊1995年12月)を発行する株式会社アテックインターナショナル(本社:東京都千代田区、代表取締役社長井上文男、以下アテックインターナショナル)は、9月25日発売の10月号より「WE`LL」を大幅リニューアルするとともに、発行サイクルをこれまでの隔月刊から月刊に変更いたします。

1995年に時代に先駆けてバリアフリーの専門情報誌として発行いたしました「WE`LL」は、94年のハートビル法の施行、98年の長野パラリンピック開催、2000年の交通バリアフリー法の公布等を時代的背景に、当初の季刊から隔月刊(98年11月より)へと着実に発展してまいりましたが、この9月25日発売から大幅リニューアルを行ない月刊誌として新装刊いたします。

新装刊「WE`LL」の編集理念は、「障害があっても、高齢になっても、自分らしく、ここちよく生きていく」ことにあります。そのために必要な、条件、ツール、そしてこころのありようまでを取り上げていきます。

新装刊「WE`LL」では、従来比較的若い車いすユーザーを対象とした誌面づくりだったものを、読者対象を高齢者、障害をもつ子の親にまで広げ、バリアフリーの視点からの生活情報、実用情報を提供する情報誌とします。障害をもつ子の親を対象に子育ての相談室を連載するとともに、現在関心を集める統合教育に関する情報も積極的に取り上げていきます。障害のある方が地域のなかで生活するための基盤ともなるグループホームづくりについて、各地での取り組みを紹介するとともに制度、条件整備等についても掘り下げていきます。

また「WE`LL」は、人々のこころにもバリアのない社会環境の実現を願って、障害者自身、高齢者自身はもとより、ご家族の方、支援者の方々からの生の声をこれまで以上に多く取り上げます。このためにホームページ「WE`LLnet(<http://www.wellnet.co.jp>)と連動した記事づくりを行います。さらに「WE`LLnet」利用者を中心にWE`LLモニタークラブ(会員約500名)を本年5月よりスタート。すでにこれまでに福祉機器、バリアフリースペースのユーステストなどを実施していますが、このモニタークラブを活用した記事の提供にも努めます。

読者に人気の高いバリアフリーツアーガイドは海外、国内を問わず、より一層、正確で役に立つ情報を現地取材でお伝えしていきます。同様に関心の高いクルマ(福祉車両)住まい(バリアフリー住宅)についても記事の一層の充実を図ります。

アテックインターナショナルはこの新装刊にあたり、「WE`LL」の印刷作業を社会就労センター(授産施設)の事業進行に取り組む日本セルフセンター(東京都新宿区、会長斎藤公生)に発注するとともに、全国2050会就労センターにおいても購読申込の受付を行ないます。

なお月刊化にともなう資金需要に対応するため、アテックインターナショナルの主要株主であるソフトバンク・インベストメント株式会社(東京都港区、代表取締役社長北尾吉孝)が運営するファンドによる資金支援が、9月末をめどに実行される予定です。

10月号(9/25発売)の主な内容は以下の通りです。

- ・特集: からだカウンセリング-障害に伴うさまざまなからだの不調や不快な症状を予防、改善する
Webによる読者アンケートの結果から多くの人が悩みとしてあげていた
じよくそう 体温調節 めまい、むくみ 腰痛、肩こり 睡眠障害 排泄
全身性障害者の2次障害の予防、以上7項目をとりあげます。
- ・連載: エンジョイ自立生活:事故で第4頸髄脱臼骨折による完全四肢麻痺になり、病院で8年、療護施設で4年を過ごした後、1997年から自立生活を続けているFさんの日常をレポート。
障害のある子の育児相談室:「けいれん発作が起こったとき」「食べ物がかみ飲み込みない」が今回のテーマ。
カーライフを楽しもう:第1回は免許を取る、がテーマ。本年6月

の道交法改正による「欠格条項の廃止」についても解説。 バリアフリーな観光案内：伊勢志摩。 それぞれの愛のカタチ：42歳の障害のある女性と27歳の男性の出会いとその後の二人の生活。 中村勝雄の街はパラダイス：脳性マヒの障害をもつ脚本家（木下恵介監督に師事）中村勝雄の「家を一步でたらずべて旅」な世界。 生かし屋が行く。 ウィルな人 など。

書籍に関して

交通エコモ財団では、現在バリアフリー関係の書籍、パンフレットを発行しております。ご興味のある方は、当財団のホームページをご覧ください。

http://www.ecomo.or.jp/barrier_free/bari_f_index.html

記事募集中！

現在、次号メールマガジンに掲載させて頂ける記事を募集中です。セミナーのお知らせや、活動報告、エッセイ等々何でも結構です。どしどしお寄せください。掲載をご希望の方は、メールかFAXでお送りください。

エッセイに関しましては、誠に申し訳ありませんが、掲載するか否かは編集担当に一任頂き、謝礼なし、とさせていただきます。

E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp FAX : 03-3221-6674

お願い(必ずお読みください。)

・転送先について

このメールマガジンを発刊してから、多くの方からお申し込みを頂いております。ありがとうございます。おそらく、お読み頂いている方から、更にその他のネットワークに転送して頂いていることがあると思います。現在、どの様な所まで、このメールマガジンをお読み頂いているかを把握したいと考えております。転送して頂いている方は、そのネットワーク、もしくは団体のお名前と人数をお教え頂ければと思います。 E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp FAX : 03-3221-6674

・送付先について

このメールマガジンをなるべくE-mailで送付させて頂きたいと思っております。アドレスをお持ちの方はご連絡ください。 E-mail : ecomomail@ecomomail.or.jp FAX : 03-3221-6674

コラム

東京交通局

鉄道発祥の地「汐留」に、都営地下鉄大江戸線、新交通ゆりかもめの新駅「汐留」が開業

開業予定日は11月2日(土)

大江戸線は「大門」駅と「築地市場」駅、ゆりかもめは「新橋」駅と「竹芝」駅の間に同時に開通。汐留再開発地区の中心部に位置し、お台場など臨海部への新たなアクセスポイントとなる。もちろんバリアフリーとなっている。

ユニバーサルデザイン

東京港区「愛宕神社」のユニバーサルデザイン。その由来は「講談で有名な愛宕神社の石段曲垣平九郎が馬で登り降りしたと言われている出世の石段(男坂) その脇に緩やかな坂(女坂)が、ユニバーサルデザインとなっている。」とある講演会で聞いた。なるほど、男坂は歩くのになんでもない人が登り、ちょっと足腰が弱い人は女坂をゆっくり登るように、当時の江戸時代から考えられていたんですね。そう言えば、他の神社でも男坂、女坂がある。また他の施設もよく見ればあるかも知れないですね。これもそうだと知っている方はぜひ、ぜひご一報を。